

## [1] 文學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2557134>

---

出版情報 : 文學研究. 1, 1932-03-10. 九州文學會  
バージョン :  
権利関係 :

台北帝國大學  
助教授

工藤好美 著 最新刊

# コウルリヂ研究

四六判一六〇頁 定價一円六十錢 送料十五錢

さきにペイター研究を公けにし、その精緻な思索と微妙な感受性を以て學界に認められた本著者は一年半の間英國の學都オックスフォードに留り、文藝批評の問題に精神を傾倒し、ペイターよりその源泉に遡り英國に於ける文藝批評を深めて眞の基礎を置いたコウルリヂの研究を完成され歸朝と同時に世に問はることになつた。このころをこめた新著は最も幽玄な詩人であり最も深遠な思想家であるコウルリヂを論じてまことに遺憾なきものである

ウォオルター・ペイター 工藤好美著

二・五〇  
・三三

工藤好美譯

ウォオルター・

ペイター短篇集

定價三円二十錢 送料二十一錢

ウォオルター・ペイターは卓抜な批評家にして同時に精妙な創作家である。この書はペイターの短篇小説集で事實上の短篇全集を形作つてゐる。ペイターの創作は類のない優雅な想像力と批評的洞察力とにみち、その情趣と意想との美は靜かな魅惑を富み、内容と形式との完全な一致はかくの如きものに缺けた現代の文學に對して深い暗示を持つ、巻頭にはペイターの藝術並に藝術論が現代文學に對して持つ意義を考察せる論文四十頁を添へ巻末には百三十頁に及ぶ註釋を加へて本文研究の手引となす。

岩波書店

東京 神田 一ツ橋通  
振替東京二六二四〇  
電話一八七・二八一  
九段一八九・二八〇

ストリントベルク全集

(1) ダマスクヘ	茅野蕭々譯	二・三〇
(2) 或魂の發展	和辻哲郎譯	二・三〇
(3) 痴人の告白	和辻哲郎譯 林達夫譯	二・五〇
(4) 下女の子女	小宮豊隆譯	二・七〇
(5) 自然主義的戯曲	小宮豊隆譯 茅野蕭々譯	二・〇〇
(6) 島の農民	草間平作譯	二・〇〇
(7) 結婚	龜尾英四郎譯	二・三〇
(8) 燕曲集	小宮豊隆譯 大庭米治譯	二・〇〇
(9) 大海のほとり	齋藤响譯	二・二〇
(10) 黒旗	大庭米治郎譯	二・八〇
獨逸文學叢書		
三部 金羊皮	グリバルツェル作 相良守峰譯	二・三〇

喜劇	ミンナ・フォン バルンヘルム	野村行一譯	一・七〇
悲劇	世襲山林監督	關泰祐譯	一・六〇
井ルヘルム・マイスター	時代上卷	ゲルテ作 林久男譯	二・八〇
井ルヘルム・マイスター	時代下卷	ゲルテ作 林久男譯	二・三〇
浪的 悲劇	オルレアンの乙女	佐藤通次譯	二・〇〇
悲劇	ザツフオー	グリバルツェル作 伊藤武雄譯	一・八〇
悲劇	ペンテジレーア	クライスト作 吹田順助譯	二・〇〇
ブランクへの旅路の	モーツァルト	メーリケ作 石川鍊次譯	一・六〇
ドン・カルロス		シルレル作 佐藤通次譯	二・五〇
レーナウ詩集		櫻井政隆譯	三・八〇
シルレル小説集		シルレル作 奥津彦重譯	二・〇〇
ヘローデスとマリアムネ		ヘツペル作 上村清延譯	一・八〇
マリア・スチユアルト		シルレル作 相良守峰譯	二・二〇

岩波書店

東京一ツ橋市通町

振替東京  
二六二四〇

電話九段

一八七

一八八

一八九

一八〇

# ユリシイズ

## 岩波文庫版

ジエイムズ・ヂョイス著

第一冊 定價四十錢

森田草平 小野健人共

名原廣三郎 安藤一郎 譯

三三四頁 送料四錢

龍口直太郎 村山英太郎 譯

以下續刊

### 讀んでわかる

### ユリシイズ

現代世界文學に於けるヂ・エイムズ・ヂ・イスの位置は正に太陽のそれである。ヂ・イスなくして廿世紀文學の太陽系は存在し得なかつたであらう。そしてヂ・イスの今日をあらしめたものは實に「ユリシイズ」一篇である。ダブリンの二平凡ブルームが一日廿四時間以内に経験した外面的並びに内部的生活を精細に記録することに依つて作者は比類ない人類の敘事詩を構成した。フロイド・ユングの洗禮を受けた現代人は無意識の世界にまで掘り下げた「ユリシイズ」の如き小説に於てなくては全部人生の眞は把握し得ないであらう。異常な頭脳と感覺を持てるヂ・イスは人間の感じ得る最大限を感じ、人間性の堪へ得る最大限の冷徹なる理智を以て之を表現した。而してその表現に使用したテクニクは過去のあらゆる文學的方法の一大綜合であり、綜合であるのみか實に新しく大膽な實驗でもあつた。「意識の流れ」の技法は一部のテクニクに過ぎない。小説の革命。アメリカにフランスにドイツにソビエトロシアにまでその影響は及び、遂に日本の文壇に新心理主義となつて現はれた。然し日本に於けるヂ・イスへの理解は、恐らくそのテクニクの難解の故に、全的とは言ひ難い。今茲に「ユリシイズ」の全譯を世に送る所以はそこに在る。「ユリシイズ」を全的に把握することは廿世紀の世界文學を知ることであり、日本文學の未來を構成する基礎である。譯者は日本に於ける代表的ヂ・イスの研究者であり、譯筆を執り始めてより既に四星霜普通の英米人にすら不可解なる作品を、フランス譯、ドイツ譯を参照しつゝ遂に邪譯し終つたのである。「ユリシイズ」の如き難解書は單なる文學者の企て及ぶものに非ず、この點本書は最も信頼し得るものたることを確信する。

# 岩波書店

東京市神田區  
橋通町

振替東京  
二六二四〇  
電話九段  
一八七  
一八八  
一八九  
一八〇